

令和7年度関東地区特定母樹等普及促進会議

1. はじめに

特定母樹等普及促進会議は、間伐等特措法の改正により、特定母樹制度が導入されたことを契機とし、特定母樹等の早期普及に向けた取組を地域において促進するための情報交換及び共同研究の推進を目的とした会議です。本稿では、令和7年度の関東地区特定母樹等普及促進会議の室内会議及び現地検討会の概要について紹介します。

2. 特定母樹等普及促進会議(室内会議)

令和7年8月6日(水)に令和7年度関東地区特定母樹等普及促進会議(室内会議)をオンライン開催し、林野庁、都県、民間企業などから96名が出席しました。室内会議では、関東育種基本区におけるスギの次世代化戦略、関



写真1 室内会議(オンライン会議)



写真2 エリートツリー特性表(2025年3月公表)



ホームページORコード

東育種基本区におけるエリートツリー及び特定母樹の選抜の現況と今後の見通し、特定母樹の普及に向けた取組、原種の生産・配布及びエリートツリー特性表が紹介されました。また、出席いただいた県の中から2県に、カラマツ特定母樹採種園造成等における取組等について発表していただきました。

3. 特定母樹等普及促進会議(現地検討会)

令和7年9月5日(金)に令和7年度関東地区特定母樹等普及促進会議(現地検討会)を林木育種センター長野増殖保存園(長野県北佐久郡)で開催し、林野庁、都県、民間企業、などから57名が出席しました。長野増殖保存園では、育種対象樹種のうちカラマツ、ウラジロモミ、シラベ及びトウヒなどの亜高山性樹種を中心に開発した品種や遺伝資源の増殖、保存、配布、調査などを行っています。現地検討会ではカラマツ苗木の生産、交配施設等の説明を行いました。



写真3 カラマツ交配園の説明

また、中部森林管理局東信森林管理署の清万^{せいまん}採種園(長野県北佐久郡)にて、カラマツ特定母樹等展示林の説明を行いました。本展示林は周囲をカラマツ第一世代精英樹に囲まれるように設置されています。展示林は4区画に分かれており、区画内は25型の採種園の設計になっています。毎年1区画毎に環状剥皮処理することで、種子を採取できる仕組みです。植栽個体は若齢のため、まだ採種園として活用されていませんが、雌花が着花し始める段階まで育つ頃には、周囲から受粉する事で遺伝的に優れた種子の採取が期待できます。

(企画部 育種企画課 藤井 純)